

## ユーモアは相手への思いやり

# 国際理解講演会「大島希巳江先生の英語落語」 3月6日(水)

本校では、外部人材の活用を積極的に行うことで、学習活動の充実を図っています。

今回は、神奈川大学教授 大島希巳江 先生を講師にお迎えし、3月6日(水)5時間目、2F アリーナを会場に国際理解講演会を開催しました。

大島希巳江 先生は、コミュニケーション及び英語教育における“笑いとユーモアの効果”の研究がご専門です。日本の落語を英語で演じる“英語落語”のプロデュースを手がけ、ご自身でも高座に上がり、古典落語・新作落語を演じておられます。毎年海外公演ツアーを企画、世界20カ国近くで公演を行うなど、その取組は本校で使用している英語教科書「NEW CROWN」にも掲載されている、著名な先生です。



第一部では、「世界の笑いとユーモア」「英語落語と日本文化」などについてお話いただきました。



- ・笑顔は敵を作らず、味方を増やす。人は笑わせてくれる相手に敵意を持たない。笑顔は伝染する。
- ・落語には、日本文化(「ソバは音を立てて食べる」といった食文化、生活習慣や常識、歴史等)のさまざまな要素が含まれている。外国の人が理解できるよう英訳するため、日本文化をあらためて学ぶことで、多くの発見があった。
- ・グローバル化が進むなか、日本文化に誇りを持ち、それをしっかりと英語で伝えられる国際人であってほしい。

第二部では、大島先生に英語落語を実演いただきました。現役の落語家の方にご指導いただいているとのこと、話術も所作もプロ顔負けで、また、英語と日本語を併用しながらもテンポの良い語り口はわかりやすく、「英語落語」を存分に楽しませていただきました。



今回のご講演のなかで、日本人のスピーチは真面目できちんしているけれど、外国の人からみるとちょっと退屈に感じてしまうというお話がありました。海外では、話の中にジョークなどを交えることで飽きさせない、とのことでした。これは、単に話を聞いてもらえるよう引きつけるというだけでなく、相手を笑顔にする=相手を大切するという意味もあるように思います。アメリカのユーモア学者の言葉にも「ユーモアは相手への思いやり」というものがあるそうです。本校ではこれまで、学校だより7月号を始め、事あるごとに、校訓「品格」のおおもとには「相手への配慮や気遣い」があることを話してきました。ユーモアや笑顔は、それにつながるものといえるでしょう。ぜひ、挨拶や会話のなかで、相手への思いやり=笑顔を大切にしてもらえればと思います。

大島希巳江 先生、ご多忙のなか、急な依頼をお引き受けいただき、ご講演いただきましたこと、誠にありがとうございました。